

平成29年度

学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を育成 (教務課, 進路・情報課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
確かな学力を育成。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (分掌レベル) 1) 言語活動の充実を図りながら、指導方法を工夫・改善し、わかる授業、力をつける授業を実践する。	評価指標 1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人10回以上他の教員の授業を参観する。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を80%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	評価指標の達成度 1) ① 平常時の相互授業参観に加え、初任者研修をはじめとする各種研修会における研究授業を参観することにより、ほぼすべての教員が他の教員の授業を約10回参観することができた。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価が93.1%であった。	総合評価 (評定) B (所見) 教員一人ひとりが授業力向上に対して、高い意識を持ち、積極的に取り組むことができています。 B 授業評価による生徒の意見を反映させながら、教員一人ひとりがわかりやすい授業展開ができるよう、積極的に取り組んでいる。	<p>きめ細かく手厚い指導がなされている。今後の新テストへの対応のためにも、先生方の負担の軽減や仕事の効率化を図り、先生方のやる気がそがれないようにしてほしい。</p> <p>学力に重点を置き、レベルアップのためのよい仕掛けを作られている。アクティブ・ラーニングを取り入れ、早いうちから校外模試等で手応えが得られるよう、補習をすべきである。1年次のうちからして、「できる」というスモールステップを大切にしてほしい。</p> <p>本校卒業を誇りにもつ生徒は多いので、在学中も思いの強さがほしい。また、学力も大切だが、自分は何ぞ生きているのかという人間性の部分と合わせての成長を望みたい。</p> <p>すべての教員が10回以上授業参観できるような働きかけや各種研修会の日程調整を行う。</p> <p>授業力向上にむけ、授業力向上研修を計画・実施したり、教員一人ひとりが積極的に自己研修に取り組めるような働きかけをする。</p> <p>難関大学を目指す生徒を育てるために低学年から難関大学を意識した集会を継続して案内をする必要がある。</p> <p>生徒における土曜補習の満足度は高い。教員の満足度が低いのは負担が大きいかからだと思われる。実施の時期や回数を考慮する必要があると考える。</p> <p>長期休業中の補習における生徒の満足度が60%台であった。補習内容を生徒にとって魅力のあるものになるように検討していく必要がある。</p> <p>校内手帳甲子園を開催するなど手帳の意義を伝える工夫はしているが、システム手帳の活用が十分とはいえない。集会やホームルームで3年間継続した指導を必要とする。特に3年次の受験期における重要事項の整理などに活用できることを期待する。</p>
	2) 理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。	2) ① 理数科から難関大学の合格者をだす。 ② 1・2年次に対して難関大進学希望者集会を実施する。	2) ① 理数科からの国公立大学や私大の難関大学の合格者は延べ2名であった。 ② 難関大進学希望者集会を1年次は11月と2月との2回、2年次は7月に実施した。	B 進路室隣の部屋を整備して Innovatin. Lab. 室としたことで、多岐にわたって活用されていることは大変意義深い。	
	3) 学習習慣の定着と基礎学力の向上を支援する。「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。	3) 「朝学」10分間を活用し、年間を通して英数国で各5回のCOMPASSを実施し、合格率70%以上を目指す。	3) COMPASSは、予定通り英数国で年間5回実施した。合格率(50点中30点以上が合格) 1年次全体 76.7%(60.0%) 国語93.1%, 数学57%, 英語80.1% 2年次全体 65%(68.4%) 国語70.8%, 数学62.8%, 英語61.3% ()内は昨年度	C 富西システム手帳はもっと活用させたい。教員と生徒との満足度が大きく離れていることが残念である。 1・2年次の土曜補習は、募集前の内容提示に効果があったのか参加者の満足度は高く、出席率もよい。しかし教員の満足度が低いのは負担が大きいためかと思われる。 長期休業中の補習は普段の授業内容を補足・充実させるもので出席率も高く、教員の満足度も高いが生徒の満足度が低い。生徒にとっての意欲をいかにかき立てるかが問題である。	
	4) 補習授業を充実させる。	4) ① 補習では、大学入試センター試験で全国平均点以上の獲得と志望校に合格する学力をつけることを目指す。早朝補習と8限目補習、大学入試センター試験後に国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。(3年次) ② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で12回実施する。(1・2年次) ③ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次) ④ 外部より講師を招き特別授業を実施する。	4) ① 早朝補習、8限目補習は、1・2学期に計画通り実施した。大学入試センター試験後は、国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を21日間以上進路別クラス・個別対応で実施した。3年次の補習については、早朝補習での参加率が昨年比較では激減しているが、進路希望の変更に応じて生徒の出入りがあり、生徒の満足度は82.1%と高い。残念ながら本校受験者の平均点が大学入試センター試験の全国平均点より上回った科目はなかった。 ② 土曜補習は9/16より希望者を対象に11回実施した。そのうちの1日は、代ゼミの望月光氏を招聘し国語の講義を実施した。生徒の満足度78.1%に対し教員の満足度72.5%と低い。 ③ 長期休業中における補習の出席率は、 夏季 1年次: 94.2(96.4)% 2年次: 94.4(94.9)% 冬季 1年次: 91.3(91.0)% 2年次: 92.9(90.4)% 1・2年次の生徒の結果を平均して満足度は平均64.0(66.7)%, 教員の満足度90.2%と差が大きい。()内は昨年度 ④ 代ゼミより年間2回、国語科の外部講師を招聘し、特別講義を実施した。	B 3年次の早朝補習は希望者対象で、実施回数も多く、習熟別・分野別にクラス分けしているので進路決定上での学力・意欲の向上に結びつけることができると考えられるが、昨年に比較して多くの生徒が長続きしなかった。しかし参加者の満足度は高いため、真に欲する者が受講したものと考えられる。 大学入試センター試験の校内平均点が全国平均点に届く科目がな	

<p>5) アクティブラーニングやICT活用等、主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人一人が自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。</p>	<p>5) ① システム手帳を活用させる。</p> <p>② オープンキャンパスへの参加を促す。各年次60%程度の参加を目標とする。</p> <p>③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、牟岐町で行われるサマースクール、京大連携事業等に積極的に参加させる。</p> <p>④ 進路指導室の隣室を整備して面接室等で稼働できるようにする。</p>	<p>5) ① 富西システム手帳を用いて学習時間や生活時間の管理を行うことが学力の向上に役立っていると考えられる生徒は1年次:54.5(47.7)%, 2年次:42.7(58.9)%, 3年次:52.5(68.7)%, 教員が82.4%に比べて生徒平均では50.2%と全体の半数程度である。()は昨年度</p> <p>② オープンキャンパスへの参加率は1年次 48.0(50.0)% 2年次 62.5(72.0)% 3年次 65.5(65.4)% ()内は昨年度</p> <p>③ 徳島県や県内外の大学、大学と地方自治体との連携事業や講座などをこまめに案内した。生徒が興味関心を持つ分野や進路につながる内容の行事等があれば教員から参加を勧めるなどして、積極的に行動する姿勢が多数見られた。</p> <p>④ 進路室の隣室を Innovation.Lab.室として整備した結果、日々多岐に渡って有効に活用している。</p>	<p>かかったことが残念である。 年度当初に計画していなかった代ゼミの国語特別授業や大学説明会などは必要な生徒にとってのプラスになったと思われる。 オープンキャンパス、大学や地方自治体主催の講座等、校外の学習の機会を積極的に活用する生徒たちが増えてきた。こまめな案内や参加指導をすることで進路実現に向けての意欲をさらに醸成することができた。</p>
<p>6) 各教科等における言語活動を充実させる。</p>	<p>6) ① 各年次で小論文模試を実施する。</p> <p>② グループディスカッションや面接指導・小論文に対する入試対策を実施する。</p>	<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回の小論文模試を計画通り実施した。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は担当者を決定して計画的に行った。</p>	<p>A</p> <p>B</p>
<p>活動計画</p>		<p>活動計画の実施状況</p>	
<p>1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人10回以上他の教員の授業を参観し、優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。</p> <p>② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。</p>		<p>1) ① 相互授業参観については、教科会、授業研究会のなかで、あるいは個別に、優れた点を授業者に伝えられたり、参観者が共有したりすることができた。また、改善すべき点は授業者に助言することができ、少しずつではあるが、教員一人ひとりの授業力向上に役立った。</p> <p>② 肯定的な意見は昨年度に比べて、約0.1%向上した。次年度もすべての教科において、教科会等で授業評価の分析、検討を行い、生徒の意見を反映させながらより一層の授業力向上を目指し、生徒にとって、今年度以上にわかりやすい授業展開ができるよう努力したい。</p>	
<p>2) ① ・英語・数学・国語の授業を習熟度別に実施する。 ・教員が入試問題を分析し、生徒のレベルに応じた授業展開が実施できるようにするために、長期休業中等を利用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。</p> <p>② 1年次は秋に、2年次は夏頃に難関大進学希望者集会を実施する。</p>		<p>2) ① ・英語・数学・国語では、生徒の進路や習熟度に応じた授業を実施した。 ・長期休業中を利用して、専門教科の研究セミナーや入試問題研究会、授業研修会等に参加した教員(学校を通して)は年間を通じて延べ9名である。習熟度別授業や入試対策補習等で研修内容を有効に活用している。</p> <p>② 難関大進学希望者集会は、1年次はベネッセの市場大樹氏の講演を11月14日と2月21日との2回、2年次は7月13日に河合塾の藤本晃一氏の講演を行い、各年次とも30～50人程度の生徒が集まり意識の向上につながった。</p>	
<p>3) COMPASSの出題範囲・内容を基礎基本の確認に精選し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。個人成績を配布するとともに職員朝会簿でHRごとの平均点をお知らせして全職員で共有する。</p>		<p>3) 「朝学」の中で予定通りCOMPASSを実施した。また不合格者に対して放課後に再COMPASSを実施するなど年次ごとに基礎学力を定着させる取り組みを行った。「朝学」が基礎学力の補強と学習習慣の定着につながっていると考える生徒74.6%、保護者91.4%、教員74.5%と満足度は高い。</p>	

<p>4) ① ・早朝補習は英数国からの2教科選択制で4グループに分けて58回実施する。 ・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。 ・国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。</p> <p>② 土曜日補習として、年間を通してテーマを絞った内容を提示して希望者を募集する。英数国より2教科を選択させて実施する。</p> <p>③ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。</p> <p>④ 代々木ゼミナールより国語の有名講師を招聘して特別授業を実施する。</p>	<p>4) ① 早朝補習は、英数国から2教科の選択が可能である。年間30分×56回を希望者対象に実施した。 1ケル13回 延べ179(143)名、実数70(81)名 2ケル11回 延べ126(178)名、実数77(110)名 3ケル12回 延べ60(181)名、実数40(113)名 4ケル20回 延べ44(115)名、実数30(72)名 ()内は昨年度 8限目補習は、1・2学期の火水木の放課後に希望者を対象に理社の科目に分かれ31日実施した。 国公立大学の2次・私大対策補習は大学入試センター試験後に21日以上クラス・個別対応で進路希望に応じた補習を実施した。</p> <p>② 土曜日補習の参加者数は153(144)名。出席率は、1年次において英語85.7(79.3)% 数学86.6(87.1)% 国89.2(80.0)%, 2年次では英語86.0(86.0)% 数学97.0(77.7)% 国92.2(86.1)%であった。土曜日補習の参加者を募集する際に補習の目的と内容について明示して案内した。()内は昨年度</p> <p>③ 1・2年次の長期休業中補習については、英数国の3教科で夏季10日間、冬季4日間実施した。3年次の補習については、早朝補習、8限目補習、2次私大対策補習等を生徒の進学先に応じて実施した。</p> <p>④ 6/24代ゼミの船口明氏、12/9には代ゼミの望月光氏を招聘し、国語の特別講義を実施した。2人とも代ゼミの人気実力派講師である。</p>
<p>5) ① 年次集会のメモ用や日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。文化祭を通じてシステム手帳の活用啓発を行う。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかりと考えさせる。</p> <p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーやサマースクール、京大連携事業等などへ積極的に参加するようによびかける。</p> <p>④ 進路指導室の隣室を整備して面接室等で日常的に稼働するとともに文化祭で開放する。</p>	<p>5) ① 年次集会や講演会等のメモや日々の学習の記録にシステム手帳の活用を促している。文化祭では校内手帳甲子園を開催し、システム手帳の表紙のデザインの紹介や手帳活用の啓発活動を行い、優秀作品は全国大会に出品した。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学に関する情報を随時提供し、タイムリーな情報が行き渡るように掲示物等に配慮した。集会では進路を考える上で、情報を入手することと自分から進んで行動することの重要性を伝えた。</p> <p>③ 県主催の徳島ウインターキャンプ(ハイレベルセミナー)に2年次3名、1年次3名が参加した。牟岐町英語HLABには2年次2名が参加した。京大グローバルサイエンスキャンパスELCASに1年次1名、農業の担い手事業「緑の学園」に2年次より1人、また、阪大・阿南連携講座や徳島大学主催の「徳島の魅力、徳島で働く」特別一般講座に全年次より多数の生徒が参加した。</p> <p>④ 生徒との面談、少人数補習、大学生との交流会、別室受験や後日受験に、討論や個別面接などの受験指導から模擬試験の仕分け、有志によるロボット製作など日々休みなく有効に活用している。また、文化祭ではInnovation.Lab.室でプロジェクター等で映像を映して新しい部屋の紹介を行った。</p>
<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回小論文模試を計画し、自分の考えをまとめ整理し、人に伝える力を養う。</p> <p>② 推薦入試や一般入試でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路・情報課でとりまとめる。</p>	<p>6) ① 1・2年次はホームルームの授業を活用し、3年次は希望者を対象に小論文模試を実施し、将来の進路実現に備える力を付けた。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は、生徒本人から申し出をさせ、全年次の教職員に協力をお願いして担当者を決定した。</p>

◎ 2 生活指導の充実を図る (生徒指導課, 教育相談課)

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実 (分掌レベル) 1) 基本的な生活習慣の育成に努める。	評価指標 1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 遅刻者を前年度より20%以上減少させる。 ③ 朝学習遅刻指導を強化する。	評価指標の達成度 1) ① 常時指導や頭髪・服装検査を実施することにより違反者は少なくなった。 ② 全年次合計で64%増加であったが、寝坊や怠惰で指導した生徒の延人数は、1学期30名(21名)、2学期70名(61名)、3学期21名(22名)と大きくは増加していない。()内は昨年度 ③ 毎日、朝学習遅刻指導を実施し、巡回指導を行った。	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標関連については不十分な部分があった。 阿南市青少年健全育成センターからの不審者等の情報が例年になく多かった(10件)。また自転車による交通事故が依然として多い傾向にある。 安全で安心できる学校生活並びに登下校ができるよう交通マナーやルールの遵守について指導をしていきたい。 事故や問題行動に対しては教職員の協力体制により、管理職や関係教員・関係機関と連携の上迅速に対応できた。 さらに積極的な生徒指導に心がける。	特別指導にかかる生徒がほとんどいないということは、大変評価でき、落ち着いた学校生活が過ごしている証拠である。いじめ等の予防教育に一層力を入れて取り組んでほしい。 街頭での交通安全指導は、とてもありがたいことであり、地域からもよい評価を得ている。	○ 正しく着こなすという意識は高まってきている。特に女子のスカートの着用指導を常時継続的に徹底して指導する。 ○ 特定の生徒が朝学習、本遅刻を繰り返した。欠席者数も昨年から増加し、基本的な生活習慣や体調管理についての見直しの指導が必要である。また保護者との連携を深め、意識の変革を促すための個別指導も強化していく。また、毎週金曜日実施の遅刻指導(寝坊や怠惰での遅刻者指導)を継続的に行う。 ○ ツイッター等SNSの情報機器の使用マナーについての指導の強化を行う。 ○ 徳島県条例で、保険加入・整備点検・ヘルメット着用が努力義務として位置づけられ、交通マナーの向上や法令遵守の徹底を図るよう指導を行う。 ○ 校内での自転車の整理整頓・施錠は定着してきたが、阿南駅や地元の駅での駐輪マナーや社会人としての意識向上の指導が必要である。 ○ 関係機関と連携し交通安全教育を推進し交通事故の減少に努める。通学指導、駐輪指導を継続的に実施する。 ○ 不審者対応の指導を現実に即して積極的に行う。 ○ 本校の教育相談課・教育相談室があることを生徒に認識させ、個々にもつ悩みなどを気軽に相談できる場や体制があることを知らせる。
		2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内) 3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ② 道徳教育用教材の活用を推進する。	2) ① 1年次生を対象に実施し、啓発に努めた。 ② 重大交通事故は発生しなかったが、交通事故は10件発生した。前年度(17件)から減少した。			
2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。 3) 生徒一人ひとりを大切にされた指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。 4) いじめの早期発見、早期対応に努め、適切な指導を図る。	3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ② 道徳教育用教材の活用を推進する。	3) ① 予定通り個人面接を実施した。生徒理解や積極的な生徒指導・いじめの実態把握や防止に繋がった。 ② 道徳教材の活用については、改善の余地があった。				
5) 「早寝、早起き、朝ご飯」を推奨し、生活習慣の改善を図る。 6) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談の体制を整え充実させる。	4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で教育相談課、人権教育課等と連携しいじめ防止指導を行う。 ② 学校いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。	4) ① 集会での生徒への啓発、防止指導を行った。他の課等との連携を徐々に深めることができた。 ② 各年次や担任と連携を図り、取り組むことができた。 ③ アンケートの分析から生徒の実態を把握できた。 ④ 4回の担任面接、2回の生徒指導課の特別面接を通じて実態を確認し、意識の高揚が図れた。				
	5) 保健だよりを適宜発行し、生活習慣の改善や健康の保持増進に関する情報提供を行う。	5) 保健だよりが生活習慣の改善に役立った生徒が63.7%であった。				
	6) ① 相談室を必要に応じて開放する。 ② 教育相談研修会を年間4回実施する。	6) ① 必要に応じて開放できた。 ② 年間4回実施し、教職員の共通理解が図れた。				
	活動計画 1) ① 頭髪・服装検査(毎月)を実施する。 ② 毎週末、遅刻指導を実施する。	活動計画の実施状況 1) ① 全校集会・年次集会時に頭髪・服装検査を実施した。 ② 毎週末、遅刻指導を個別に実施した。				

		<p>③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。</p> <p>2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。</p> <p>② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。</p> <p>③ 交通マナーアップ活動（生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底）を実施する。</p> <p>④ 自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。（年2回）</p> <p>⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。</p> <p>⑥ 原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。</p> <p>3) ① 面接週間を4回、特別面接週間（6・10月）2回、三者面談を1回実施する。</p> <p>② 年次会で情報交換を行う。（随時）</p> <p>4) ① 年次集会や全校集会を行う。教育相談課、人権教育課等と連携を図る。</p> <p>② すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図る。</p> <p>③ 年間3回学校生活アンケート（7・11・3月）を行う。</p> <p>④ 年間4回の面接、2回の特別面接を行う。</p> <p>5) ① 保健だよりに、生活習慣の改善に関する記事を組み、生徒の意識啓発を図る。</p> <p>6) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。</p> <p>② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。</p>	<p>③ 毎日、朝学習指導を実施した。</p> <p>2) ① 4月に携帯電話安全教室、11月に薬物乱用防止教室を実施した。</p> <p>② 4月に交通マナーアップ講話を実施した。</p> <p>③ 生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動（あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施した。</p> <p>④ 4・9月に点検週間を設け自転車・原付の整備点検を実施した。また1年次は10月に自転車整備士による点検を実施した。</p> <p>⑤ 毎月、学校安全の日に街頭通学指導（8:10～8:30）を実施し、月～木曜日に富西前交差点で通学指導（8:10～8:20）を実施した。</p> <p>⑥ 7月に阿南自動車学校で原付免許証取得者実技講習会を実施した。</p> <p>3) ① 4・6・9・1月に担任による面接週間、6・10月に生徒指導課による特別面接を実施した。夏季休業中に三者面談を実施した。</p> <p>② 各年次会で情報交換を実施した。</p> <p>4) ① 必要に応じ教育相談課や人権教育課と連携した。</p> <p>② 担任、年次主任及び管理職と連携し、委員会や会議の中で連携し指導を決定した。</p> <p>③ いじめについて年間3回のアンケートを実施した。</p> <p>④ 年間4回の面接、2回の特別面接の中でいじめについての聞き取りや指導を取り入れた。</p> <p>5) ① 保健だよりを定期的に発行し、健康への啓発を行った。</p> <p>6) ① 別室登校生徒の指導やスクールカウンセラーの利用等の態勢を組めた。</p> <p>② 外部講師の招聘を含め、教職員の共通理解が深められた。</p>		
--	--	--	--	--	--

◎ 3 豊かな人間性と社会性を培う（特別活動課，人権教育課，図書・環境教育課）

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
豊かな人間性と社会性を培い、「学び合い、高め合い、支え合う」集団をつくる。	(全校レベル) I) 特別活動の充実 II) 人権教育の充実 III) 読書活動の充実 (分掌レベル) 1) 部活動、生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ、主体性や協同の精神、愛校心を育てる。	評価指標 1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。（必要に応じて適宜実施する） ② 各種研修会を年間2回実施する。 ③ 年間を通し生徒会、部活動生徒により校門前で挨拶運動を20分間実施する。雨天時は昇降口で行う。	評価指標の達成度 1) ① 本年度は特に開催の必要性がなかったので実施しなかった。 ② 各種委員会（4・10月）とホームルームリーダー研修会（5・10月）を実施した。リーダーとしての責任感と意識の高揚に努めた。 ③ 月曜日は生徒会、他の曜日は部活動生徒が年間を通じて実施できた。	総合評価 (評定) B (所見) 学校祭は、おおむね生徒、教員とも満足度は高い。しかし、引き続き内容に関して細かい部分の改善の余地がある。部活動入部率は高いがその質の充実を果たしていく必要があると感じる。毎日の授業終了時刻が遅いため練習時間の確保が困難である。質と量の確保が求	新体操をはじめ、部活動が活発に行われ、成果がでてきていることは大変評価できる。 台湾の学校との交流も行われ、グローバル教育や情報教育につなげ、これからの時代を生き抜く力を育成してほしい。 ○ 本年度より携帯電話での写真機能のみの使用を許可したが完全にルールは守れていなかったり、紅白歌合戦の内容やそのもの自体のあり方も引き続き検討したりする必要がある。日常の学校生活を送る中からルールの遵守の必要性を説き、また徹底を図る指導の継続が必要である。 ○ 部活動の時間の確保については、唯一の6限終了日の金曜日に会議をできる限り入れない努力を

2) 学校行事や部活動等をとおして、調和のとれた人間性を育成する。	2) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。 ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度は80%以上とする。 ③ 部活動への入部率を80%以上とする。	2) ① 3日間で1,047名で予定を上まわった。 ② 90%以上の満足度で達成できた。 ③ 入部率90%で達成できた。	A	められる。	して時間の確保に努めてもらえたと希望する。
3) ボランティア活動等をとおして、社会参加の意識を高め、奉仕の心を育む。	3) ホームルーム活動で、全学年ともクラスごとに学校周辺と桑野川河川敷の清掃ボランティアを実施する。	3) 約9割のクラスで実施できたが、目的意識が教員・生徒とも低いような気がする。	B		
4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。	4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ) ③ 「富西人権の日」を月1回実施する。	4) ① 生徒の86%が、人権学習ホームルーム活動を通じて人権意識の高揚に努めていると回答した。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施することで、授業内容の充実を図ることができた。 ③ 月1回の「富西人権の日」では、様々な行事を企画・運営することができた。また、生徒の89%が、行事により人権意識の高揚に努めていると回答した。	B	人権学習ホームルーム活動や、富西人権の日の行事については、人権意識の高揚に努めていると評価した生徒が85%を超えている。今後は生徒の自発的な行動やボランティア活動につながるよう、支援していかなければならない。	○ 人権に関するホームルーム活動や学校の行事については、保護者・生徒・教員とも概ね満足度は高い。しかし、それらの行事が受身にとどまらず、自ら考え実践に移せる生徒の主体性を定着させられるよう、指導・支援していかなければならない。
5) 日常生活の様々な機会をとおして、人権が尊重された環境づくりをめざす。	5) 人権に関する作品の作成をとおして、人権が尊重された環境について考える。	5) 作品づくりをとおして自己を振り返り、様々な人権問題について考えることができた。一部の作品は県や市のコンクールで好成績を収めた。	A		
6) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。	6) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	6) 「じんけん富西」の発行や富西祭での啓発活動を行うなど、積極的に活動できた。また、校外での活動にも多数の生徒が参加した。	B		
7) 読書活動の啓発を行い、読書の習慣化を図る。	7) ① 「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。 ② 年2回読書会を開催する。	7) ① 「ライブラリーニュース」を年間9回発行した。 ② 年2回読書会を実施した。	B	活動は計画通り実行できたが、「ライブラリーニュース」の存在が生徒の中で十分行き渡っていなかったようである。	○ 「ライブラリーニュース」の展示方法を工夫するなど、広報活動に力を入れていきたい。
	活動計画 1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。 2) ① 学校祭を9月実施とし、一般公開する。 ② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ③ 4月と2月で入部率を調査・把握する。 3) ① 各年次、年間に1回清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。 4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。 ③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。 5) 人権に関する感想文・作文・標語・ポスター・作詞作曲・書道の作品作成に取り組む。	活動計画の実施状況 1) ① 本年度は特に開催の必要性がなかったため実施しなかった。 ② 各種委員会(4・10月)とホームルームリーダー研修会(5・10月)を実施した。リーダーとしての責任感と意識の高揚に努めた。 2) ① 予定通り実施できた。 ② 楽しく充実しているが生徒94%、教員96%であった。 ③ 4月も2月も90%で定着できている。 3) ① 2月末で、実施率約90%である。 4) ① 人権学習ホームルーム活動を各年次年間6回ずつ行うことにより、人権意識の高揚に努め ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修会を年間4回実施することで、授業内容の充実を図ることができた。 ③ 月1回の「富西人権の日」では、様々な行事を企画・運営することができた。 5) ① 人権に関する作品を作成することによって、自己を振り返り、様々な人権問題に関心を持つことができた。			

	6) ① 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。 ② 人権委員会の富西祭での展示，社会問題研究部の自主研修を支援する。	6) ① 人権委員の意見や感想等を取り入れた「じんけん富西」を作成・発行できた。 ② 社会問題研究部員は数名しかいないが，有志が参加しての研修も多く，充実させることができた。人権委員会は富西祭での啓発活動で積極的な取り組みを見せた。		
	7) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。 ② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。	7) ① 図書委員会で推薦図書や行事案内を入れた「ライブラリーニュース」を作成・発行し，教室に掲示した。 ② 図書委員会で本を選定し，ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。		

◎ 4 生徒一人一人の個性・能力を伸ばし，進路志望の実現を図る (進路・情報課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
生徒一人一人の個性・能力を伸ばし，進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進 (分掌レベル) 1) 生徒の能力，適性に合った進路実現を図るため，きめ細かな指導を行う進路指導体制の充実を図る。	評価指標 1) ① PTA総会午後の学級懇談用，各年次部会，三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。 ② 進路情報誌『道』を発行する。 ③ 生徒対象と保護者対象の2部に分けて各年次で進路講演会を実施する。 ④ 3年次の生徒を対象とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。	評価 評価指標の達成度 1) ① 1・2年次の保護者には高校のガイダンス本や入試の概要がわかる冊子を，3年次の保護者には入試や進路の詳しい情報冊子を配布した。また，ホームルームや教職員個人用に入試や進路に関する情報誌を適宜提供した。 ② 7月7日に『道』を発行した。7月14日に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設に実施した。進路ホームルーム活動の生徒の満足度は86.6%，教職員は92.2%と高い。 ③ 3年次は進学希望者と就職・公務員・一般専門学校進路希望者に分かれて各方面の専門講師先生をお迎えして進路別ガイダンスを行った。保護者対象には年間2回の年次部会を開催し，担任団や進路・情報課から進路情報や日程，進路実現までの流れを話す機会を設けた。また，10月に1年次の生徒・保護者対象にベネッセの市場大樹氏を，2年次は近畿大学入学センター高大連携課長の屋木清孝氏を招いて進路講演会を実施した。進路講演会と進路ガイダンスに関して生徒は89.0%，保護者は92.2%と高い満足度を示した。 ④ 進路対策委員会は各回の目的に応じて年間3回以上開催した。	総合評価 (評定) B (所見) 今年も本校の進路情報誌『道』の発行を行い，その他の業者による進路情報誌も各年次の生徒，教員に適宜提供できた。 生徒・保護者対象の進路講演会においては，講演の目的を明確にして講演内容を吟味した上で実施できたことで生徒，教員ともに満足度は高かった。 特に2年次の総合的な学習の時間では，修学旅行で訪問する相手先との交渉やパワーポイントによる研究発表など，キャリア教育との関連も深く，取り組み次第で研究内容を深めることができた。また，今年は発表会が12月で十分な準備ができる時間があつた。今後は研究発表の内容をいかに深めるかが肝要である。 2月末現在概ね自分の希望がかなったところへ進路実現した生徒は	徳島県全体での学力低下が気になる。阿南高専との競合や学区制など，検討課題はあるが，授業改善等に積極的に取り組み，全国平均に届くよう更なる努力を期待する。	○ 全年次で『道』を使った進路ホームルーム活動の特設実施する以外に，早い段階から受験に関する知識や情報が伝わるようにする必要はある。ホームルーム活動の工夫を行い繰り返しになっても進路意識をより高める啓発活動を更に充実させたい。 ○ 進路講演会は，その年次で伝えたい内容を焦点化し，講師との事前協議を必ず行う。講演の目的を明確にして実施する。また，演者の選定は非常に重要である。毎年同じ講演者であっても内容の充実度と聞き手の満足度により引き続きお願いしたい。 ○ キャリア教育に関する講演会は2年に一度のペースで実施できればいいのではないかと
		A				

		<p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p>	<p>④ 6月に就職・調査書関係の進路対策委員会を、7月に進路志望先検討会、1月に大学入試センター試験後の出願検討会として主には年間3回実施した。その他推薦に関する選考会などは複数回実施した。スタディーサポートの結果や模擬試験の集計結果を用いて進路対策委員会に必要な資料を作成するとともにセンター試験後の担任作成資料は担任の負担が少ないように内容を改善した。</p>		
		<p>2) ① 進路設計についてのテーマに沿った学習を実施する。各年次でテーマを決定し、進路ノート等を使って進路指導を実施する。 1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究 3年次：受験までのスケジュール、志望理由、面接、教科別受験対策 など</p> <p>② 「キャリア」への意識を高める講演を行う。</p>	<p>2) ① 1年次前半は各教科から「高校の学びを知る」として、「学び」の内容と職業や学問など社会との関わりについて講義した。後半は進路ノートを活用して、社会・職業・学問を柱として進路を知り興味関心を深め課題研究の準備を行った。2年次前半は講座別の活動を通して、各講座内グループが個別にテーマを設定して調査研究を行い、発表した。発表後は、社会・職業・学問を柱に、進路についての知識を深め、3年次への準備を進めた。3年次では志望理由書、小論文、集団討論、面接指導などを複数回行い、進路実現に向けた時間として活用した。</p> <p>② 考えていた講師先生の時間的都合により約束できずに実施に至らなかった。</p>		
		<p>3) ① 学力対策講座ではKバック（河合塾）・白バック（代ゼミ）を全10日間で実施し、校内で成績処理をする。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。</p> <p>② ・全員の先生方に「チーム富西」として3年次生の進路指導の協力をお願いする。 ・3年次担当以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。</p>	<p>3) ① 学力対策講座では青バック（駿台）・Kバック（河合塾）・白バック（代ゼミ）を全8日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設けた。教養講座では、外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる講座を開いたり、パソコンで情報処理の学習を行ったりするなど社会での即戦力となれる知識技能の習得の時間とした。</p> <p>② ・AO入試、推薦入試にはじまり一般入試まで教科指導・口頭試問・小論文・面接・討論等において「チーム富西」として全職員の先生方に指導の協力を得た。 ・進路情報に関しては、回覧板を使って年次ごとに情報を共有することにつとめた。</p>		

◎ 5 環境教育・防災教育を推進する（地域連携課、図書・環境情報課）

自己評価			学校関係者評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価	総合評価	
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実	評価指標			(評定) B	校舎内外の清掃が行き届いている。防災クラブの積極的な取り組みは、評価できる。有事に
	(分掌レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が70%以上とする。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒は71%であった。	B	(所見) 校外清掃参加者がほぼ限定されており広く参加を呼びかけることが	

○ 1) 日々の清掃のあり方について効果的な監督指導を行うことと、全員が環境整備に携わるという意

2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	② 校外清掃ボランティアを年間10回以上実施する。(参加生徒延べ人数130名以上とする)	② 2学期にバス停と自転車置き場外道路の除草に80名、桑野川土手の清掃にほぼ毎週6名が参加した。	できなかった。	備え、日頃からの訓練をしっかりしておいてほしい。	識を醸成する必要がある。
	2) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。 ② 防災に関する研修を年3回以上実施する。	2) ① 防災研修会への参加・防災プレゼンテーション・防災士体験発表の準備・飛散防止フィルムの貼付を含め10日以上活動できた。 ② 防災訓練の際、それぞれ防災についての準備を周知した。			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1) ① 校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取り組むよう徹底する。 ② 環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。	1) ① 環境委員により、しっかり取り組むよう生徒へ周知したが、徹底できていなかった。 ② 環境委員と部活動代表者を集め、ゴミの分別の方法と徹底を周知した。			
	2) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し、転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。 ② 地域の保育園児の避難誘導を、防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。 ③ 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は、高台(校舎の南の山)へ避難することを周知徹底する。	2) ① 近所の高齢者宅への訪問は実施できなかった。代わりに飛散防止用フィルムの貼付を3月に実施する予定である。 ② 2学期の避難訓練において、近隣の保育所の園児たちと合同の避難訓練を実施し、共助の必要性を実感することができた ③ 1学期の避難訓練において、津波を想定して3・4階に避難する訓練を実施した。			○ 2) 高校生防災士を可能な限り増やし、地域での活動の中心となれるようにする。来年度も活動費が下りれば、教室の窓ガラスに飛散防止用フィルムの貼付を行う。

◎ 6 開かれた学校づくり (教務課, 特別活動課, 地域連携課)

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価	総合評価
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。	評価指標 1) ① 中学生体験入学は、実施内容を改善し、アピール度の向上を図る。参加者は500名以上、参加者の80%以上が肯定的な感想を持つ内容とする。 ② 学校公開の参加者は50名以上とする。 ③ 地域説明会は5ヵ所で行い、合計の参加者は200名以上とする。 ④ 各中学校、年間2回以上訪問を行う。	評価指標の達成度 1) ① 参加者(中学生)は503名で、肯定的な感想を持つ参加者は全体の98.1%であった。 ② 学校公開の参加者は25名であった。 ③ 地域説明会の合計申込者は227名、参加者は186名であった。 ④ 勝浦中学校・小松島中学校から由岐中学校・相生中学校間にある中学校を2回、上勝・上那賀・木頭中学校を1回訪問できた。	評価 B	(評定) B
	(分掌レベル) 1) 中学生体験入学、学校公開、地域説明会等を行い、積極的な広報活動を行う。				(所見) ①参加者(中学生)は昨年度に比べて、96名の減となったが、肯定的な感想を持つ生徒は昨年度よりも0.7%増加した。 ②平日開催となり、昨年度より60名減となったが、生徒の授業での雰囲気と学校全体の雰囲気がよいという声を多くいただいた。 ③ほぼ目標を達成できた。 ④ほぼ目標を達成できた。
					ホームページは、更新回数も多く充実している。進学状況等は地域からの注目度が高いので、早い時期に更新すべきである。 ○ 1) の①～③については、参加者アンケートの要望等を分析し、より魅力ある内容に改善していきたい。

<p>2) ホームページの充実を図る。</p> <p>3) 学校評価と学校関係者評価を実施し、よりよい学校づくりに努める。</p> <p>4) P T A役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。</p>	<p>2) ① ホームページの更新を年間で200回以上行う。</p> <p>② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。</p> <p>③ P T A・同窓会のページを充実させる。</p> <p>3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、3月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。</p> <p>4) P T A役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を旨す。</p> <p>活動計画</p> <p>1) ① 中学生体験入学では在籍生徒を主体的に活用するなど、より魅力的なものになるよう改善する。</p> <p>② 学校公開を10/13(金)午後実施する。</p> <p>③ 阿南・羽ノ浦・小松島・丹生谷・美波地区で本校の教育活動等について説明する。</p> <p>④ 勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。</p> <p>2) ① 更新担当者数を増やし、各課ごとに掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立していく。</p> <p>② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し在籍生徒も利用しやすい情報の掲載を目指す。</p> <p>③ 地域連携課と相談し、保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。</p> <p>3) 学校評価を行うことで学校の現状や課題について情報を共有化し、教育活動の活性化につなげる。</p> <p>4) ① 役員会の開催については、文書及びホームページで案内する。</p> <p>② ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。</p>	<p>2) ① ホームページの更新回数は200回以上であった。学校生活や行事など多くの情報を発信できた。</p> <p>② 定期考査や学校行事など生徒も利用しやすい内容も掲載した。</p> <p>③ P T A、同窓会のページの更新はあまりできなかった。</p> <p>3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜実施し、また、3月16日には学校評議員を招き学校関係者評価を実施する。</p> <p>4) P T A役員会は予定通り実施。勤務の都合で支部によっては毎回出席できないこともあった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 今年度も在籍生徒を主体的に活用することができ、参加者にも好評であった。次年度もなお一層、魅力的な行事になるよう内容面においても改善していきたい。</p> <p>② 魅力ある行事になるよう内容面を改善していきたい。</p> <p>③ 今年度は天候に恵まれ、計画通りに実施できた。</p> <p>④ 遠方の中学校で1回しか訪問できなかった中学校もあったが、ほぼ計画通りに訪問でき、訪問中学校出身者の進路や本校における学校生活の様子を報告することができた。</p> <p>2) ① 多くの教員が、ホームページ更新できることを目指したが、一部の担当者しか携わることができなかった。</p> <p>② 本校の生徒は、よく部活動や学校行事などの写真をよく見ているようであるが、一部の部活動に偏ってしまった。</p> <p>③ 保護者の方に対して、年次通信や文書などをできる限り発信したが、卒業生に対してはほとんどできなかった。</p> <p>3) 学校評価推進委員会で、本年度の重点目標や評価指標を設定した。複数の課が連携し課題を共有し、目標の達成に努め、また学校評価アンケートの結果を分析し次年度への課題とした。</p> <p>4) ① 役員会開催にあつては、文書の送付に加え、ホームページで随時案内できた。</p> <p>② 牛岐同窓会については、はがき、新聞広告、ホームページで案内に努めた。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>ホームページを活性化させることが、中学生や地域住民の方たちへのPRにつながるという思いで更新したが、なかなか更新できないページもあったのが反省点である。</p> <p>多くの情報を載せたホームページにするためには、ホームページ担当者を増やすことが急務であると感じた。部活動の活動報告、試合結果も一部に偏ってしまったので、写真や試合結果などを掲載できるような仕組みに来年度はしたい。</p>	<p>○ 特に部活動のページが、一部の部は全く更新できなかった。試合結果や活動報告など、部活動の担当の先生が、気軽に作れるように、働きかけをしていきたい。また、パソコンだけではなく、スマートフォンでも見やすいように、改善していきたい。</p>
---	--	--	----------------------------	---	---